



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

平成29年 野球殿堂入り記者発表

館長 廣瀬 信一

当館の休館日である1月16日(月)、午後2時より野球殿堂博物館の殿堂ホールにおいて、平成29年の「野球殿堂入り」記者発表をマスコミの皆様と、事前にお申込みがありました個人の維持会員の皆様をお招きして行いました。競技者表彰・プレーヤー表彰では、西武黄金期を支えた名捕手で、現在ロッテ監督の伊東 勤さんが選出されました。エキスパート表彰では、楽天を初の日本一に導いた“闘将”星野 仙一さんと、“カミソリ・シュート”を武器に大洋で201勝をあげた平松 政次さんが選出されました。特別表彰からは、アマチュア野球の名審判員で、審判員指導者としても貢献された、故・郷司 裕(ごうし ひろし)さんと日本野球規則委員会での中心的役割を果たされた、故・鈴木 美嶺(みれい)さんが選出されました。

熊崎 勝彦理事長から本年度野球殿堂入りの発表、挨拶に続き、永瀬 郷太郎代表幹事より競技者表彰委員会、また池田 哲雄特別表彰委員会議長より特別表彰委員会の選考過程について各々報告がありました。続いて、殿堂入り通知書の授与および、顕彰者の挨拶が行われました。まず、プレーヤー表彰の伊東さんは、大変緊張した面持ちで「自分には縁がないと思っていた。野球を一生懸命やってきて良かった」と喜びをかみしめられました。エキスパート表彰の星野さんからは「これだけ長く野球に携われるのは本当に幸せ。野球に感謝しないといけない」、続いて平松さんは、紅潮した右頬をつねって「痛いですね。夢の中の夢。最高の名誉」と満面の笑みを浮かべられました。

特別表彰で選出された郷司さんのご次男、信之さんは「父も天国で非常に喜び、感謝していると思う」と喜ばれ、鈴木さんの代理、東京大学野球部OB会長の橘谷(きつた)に 健さんは「殿堂入りに関係された皆様に厚くお礼申し上げます。本人も喜んでいると思う」と受賞を感謝されました。なお、1月19日(木)に鈴木 美嶺氏のご次男・貴彦さんがご来館され、通知書をお渡しいたしました。

引き続き、ゲストスピーチに移り、伊東さんと同じパ・リーグで、8年間投手と打者として対戦、またロッテの先輩後輩でもある村田 兆治さんから、「分析力、判断力、決断力がある。かつてはライバルとして戦ったが、本当はバッテリーを組みたかった」。星野さんには、明治大、さらに中日ではエースナンバーの「20番」を背負った先輩後輩の杉下 茂さんから、「明大監督・島岡(吉郎)御大の下、闘魂を身につけて中日に入った。打倒巨人に燃え、他には目もくれなかった」と懐かしまれました。平松さんには、高校(岡山東商)、大洋ホエールズの先輩後輩である土井 淳(きよし)さんから、「現役の際年に監督から、平松の時は捕手をやれと命令された。お陰で、2年ほど寿命が延びた。シュートは物凄く速くて切れが良かった」。郷司さんが主審を務めた、1969年夏の全国高校野球決勝・翌日再試合の三沢高校と対戦した松山商のエース・井上 明さんから、郷司さんには決勝戦での複雑な思いを抱いた一球があったという逸話を披露していただきました。鈴木さんには、東大野球部、日本野球規則委員会先輩後輩の麻生 紘二さんが、「雲の上の存在。美嶺さんご自身がルールブックのような人だった」と故人を懐かしまれました。



後列左から 村田氏、杉下氏、土井氏、郷司 陽子氏(郷司氏夫人)、郷司 英之氏(郷司氏三男)、井上氏、麻生氏
前列左から 伊東氏、星野氏、平松氏、熊崎理事長、郷司氏、橘谷氏
(記者発表の動画を当館ホームページでご覧いただけます。)



鈴木 美嶺氏次男・鈴木 貴彦氏

最後に、殿堂入りされた方々とゲストスピーカーなどを交えた記念撮影を行いました。

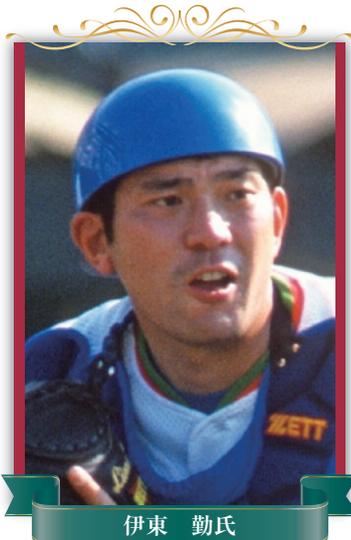
昨年に引き続き、野球殿堂入りをされた皆様を始め関係者の方々にご出席をいただき、記者発表後の懇親会を東京ドームホテルで行いました。途中で郷司さんが生前「明治大学校歌」が大好きだったことがご家族から話されると、全員で合唱するなど、和気藹々親睦を深めることができました。

競技者表彰委員会

第57回競技者表彰委員会は、プレーヤー表彰で西武黄金時代の正捕手として14度のリーグ優勝、8度の日本一に貢献した伊東 勤氏、エキスパート表彰で中日、阪神、楽天の3球団で監督を歴任し2013年に楽天を日本一に導いた星野仙一氏、カミソリシュートを武器に通算201勝を挙げた平松政次氏の計3人を野球殿堂入りに選出した。

プレーヤー表彰は現役を引退して5年を経過し、かつ引退から21年未満の有資格者の中から幹事会が選んだ16人の候補者を対象に、15年以上の野球報道経験を持つ345人の委員のうち334人から最大7人連記の投票があった。無効票が1あり、有効投票数は333。投票総数1509、委員1人平均4.5人連記の投票で当選したのは得票率79.6%の265票を獲得した伊東氏だった。

初めて候補になった2009年の22票からスタートし、候補9年目での殿堂入り。捕手として1500試合以上出場した選手としては1989年の野村 克也氏、2005年の森 祇晶氏、2015年の古田 敦也氏に続いて4人目となる。



伊東 勤氏

現在は千葉ロッテマリーンズの監督を務めており、現役監督の殿堂入りは1965年の川上哲治氏、鶴岡 一人氏、2011年の落合 博満氏、2014年の秋山 幸二氏、2016年の工藤 公康氏に続いて6人目となった。

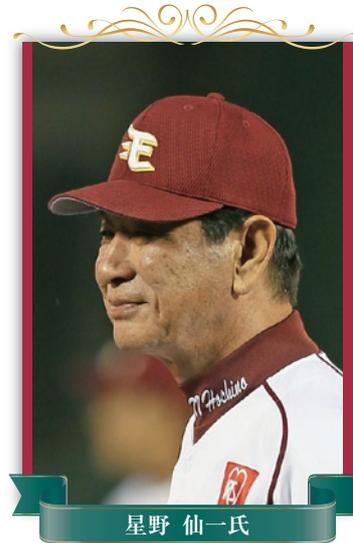
「名誉ある殿堂に入れていただき、本当に自分でいいのかというのが正直なところです。恩師として指導していただいた大先輩の川上

さん、広岡（達朗）さん、森さん、ウォーリー与那嶺さんに少しでも一歩でも近づけたかなと感謝の気持ちでいっぱいです」。

2004年の西武監督就任時に直筆の手紙をもらった熊本工の先輩、川上氏をはじめすでに殿堂入りしている恩師の名前を並べ、昨年大地震に見舞われた故郷・熊本に向けて「少しでも励みになってくれれば…」と語った。

エキスパート表彰は幹事会が選んだ14人の候補者を対象に、すでに殿堂入りしている人と競技者表彰委員会幹事、30年以上の野球報道経験を持つ計120人のうち113人から最大5人連記の投票があった。無効票が1あり、有効投票数112。投票総数471、1人平均4.2人連記の投票で、星野氏が有効投票数の78.6%にあたる88票、平松氏が同じく75.0%の84票を獲得して殿堂入りした。エキスパート表彰で同時に複数が殿堂入りするのは2008年に競技者表彰がプレーヤー、エキスパートの2部門に分かれて10年目にして初めて。

「私には本当に似合わない席。何かの間違いが起きたのかなあ」。



星野 仙一氏

穏やかな表情でそう謙遜した星野氏は現役時代、中日のエースとして通算146勝（121敗34セーブ）を挙げ、監督としては歴代10位となる通算1181勝（1043敗53分け）を記録した。中日で2度、阪神、楽天でそれぞれ1度と4度のリーグ優勝。セ・リーグではかなわなかったが、2013年に楽天を初めて日本一に導いた。

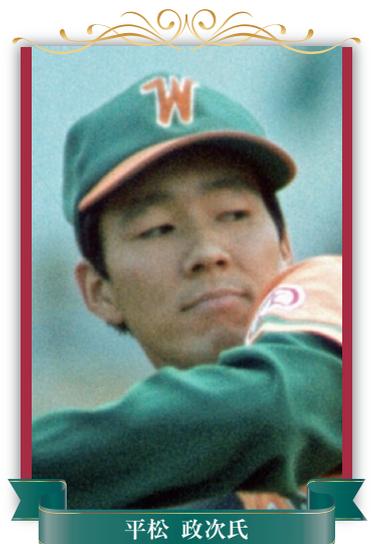
打倒巨人に燃えたプロ野球人生。宿敵から35勝を奪った。明大、中日の先輩、杉下 茂氏がゲストスピーチで「1974年にリーグ優勝したとき、ビールかけの際に星野は『日本シリーズは邪魔っ気なんだ。ジャイアンツに勝ただけでいい、と話していた』とエピソードを披露。「監督になっても巨人に勝ってリーグ優勝ただけでよかったのかな。日本シリーズはペナントレースと違って闘将が柔和だった」。なるほど初の日本一、シリーズの相手は巨人だった。

古希、70歳の誕生日（1月22日）を6日後に控えての栄誉。星野氏は「これだけ野球に携われるのは本当に幸せ。野球に感謝しないとイケない。ああ、野球をやってきてよかったなあと思う」と喜びを噛みしめた。

星野氏と同じ岡山県出身の平松氏も巨人戦に燃えた。通算201勝のうち51勝がジャイアンツから。特に長嶋茂雄に対しては鋭く内角をえぐり、打率.193に抑え込んだ。

岡山東商のエースとして1965年の選抜大会で全国制覇を果たすが、2年生だった前年夏は東中国大会進出をかけた試合で1学年上の星野氏がいた倉敷商高と対戦。2番手として登板して打ち込まれ、2-11の大敗を喫した。

「星野さんはもの凄い気迫で、高校生でこんな球を投げることというシュートを投げていた。同じ学年だったら甲



平松 政次氏

子園には行けなかったと思う。同時に殿堂入りできたのも因縁があるんでしょうね。

星野氏が「野球界が一つになれるよう、これからも後押ししていきたい」と話せば、こちらも今年9月19日に古希を迎える平松氏は「もう一度、地上波のテレビでプロ野球

を見てもらいたい」。巨人戦にぶつけた熱い思いを殿堂入りした今、球界全体に向けた。

(競技者表彰委員会代表幹事 永瀬 郷太郎)

写真提供：ベースボール・マガジン社

特別表彰委員会

2017年1月10日、東京ドームホテルで、午後2時から第56回特別表彰委員会が開催された。

表彰委員総数14人の投票委員によって投票が行われ、本年度は郷司 裕氏と鈴木 美嶺氏の2人が共に殿堂入りに必要となる、有効投票数の75%を上回る12票を獲得。晴れて殿堂入りの栄誉を獲得した(有効投票数14)。

郷司氏は、1932年1月19日生まれ(2006年12月12日没)。北海道出身。明治高在学時に同高の野球部監督だった島岡吉郎氏から審判になることを勧められる。

明治大進学後、東京六大学野球連盟の審判になるには、野球部OBでないと出来ないことから、同野球部に在籍。審判としての訓練を積む。



郷司 裕氏

写真提供：ベースボール・マガジン社

明治大卒業後の54年、NHKに入局。その傍ら東京六大学野球連盟の審判としてキャリアを積んだのだ。

64年からは、高校野球でも審判を務めるようになる。特に83年まで春16回、夏15回決勝戦の審判を任されている。

その中でも、最も印象に残るのが、69年(第51回大会)夏、松山商対三沢高の決勝戦と決勝再試合で、球審を務めたことである。

99年には高校、大学、社会人で長らく審判を務めたことで、アマチュア野球の審判員としての功績が称えられ、朝日スポーツ賞を受賞。東京六大学野球連盟の規則委員、審判技術顧問も務め、アマチュア野球の発展と底辺拡大に尽力したことが、郷司氏の受賞の決め手となった。

鈴木氏は、1921年9月3日生まれ(91年10月11日没)。兵庫県出身。熱田中学—第八高等学校—東京帝国大学。東京

帝大時代には二塁手として活躍する。卒業後には毎日新聞入社。46年から東京六大学野球の審判員となる。68年から東京六大学野球連盟公式記録員を務める。

54年から東京六大学野球連盟規則委員を務め、翌55年から日本野球規則委員会編纂委員に就任する。同年12月にプロ野球とアマチュア野球の代表者が集まり、それまで別々に発行されていた「規則書」の合同化が決定。鈴木氏は、その編纂委員として参画することになった。

プロ・アマの規則書が初めて統一された「1956年度公認野球規則」を発刊、世に送り出された。以降、アメリカの野球規則が改定される度に日本語に翻訳。日本の「公認野球規則」に書き加える作業を担当したのだ。

日本の野球規則の原型を作り、時代の変化に応じて改変するのが、鈴木氏のライフワークだった。

スポーツライターとしても、健筆を振るった。

「野球難問解答集」、「わかりやすい公認野球規則」、「野球ルール千夜一夜」などの規則書を著す傍ら、ニューヨーク・ヤンキースの闘将ビリー・マーチンの自伝「戦う男」など大リーグのスターの書籍を翻訳することも手掛けた。日本の野球ファンにアメリカ野球の魅力を伝えたのだ。

東京六大学野球連盟審判員、東京六大学野球連盟公式記録員を務めながら、立大・長嶋 茂雄のデビューから当時の新記録だった通算8号本塁打まで立ち会い、絶妙な筆致で誌面に展開。後世に語り続けている。

56年には、ブルックリン・ドジャースと、ニューヨーク・ヤンキースのワールドシリーズの取材に出かけ、第5戦でヤンキースの右腕ドン・ラーセンのシリーズ史上初のパーフェクト・ゲームに遭遇。ヤンキース17回目の世界一を見届けている。

鈴木氏は、記録と記憶に残る球史のドラマを伝え続けた、日本を代表する野球記者でもあったのだ。

(特別表彰委員会議長 池田 哲雄)

殿堂入りの人々を語る(54)

父を憶う

よして
川上 貴光 (1965年野球殿堂入り 川上 哲治氏長男)



川上 哲治氏

父が亡くなって3年になる。今でもときどき父の夢を見る。父は監督を引退してから、全国を回って、子供たちに野球を教える。父は監督を引退してから、全国を回って、子供たちに野球を教える。父は監督を引退してから、全国を回って、子供たちに野球を教える。「ほら、水戸黄門。あれが夢だね。車のトランクにバットとグローブを積んで、ふらりと独りで旅に出る。野原で草野球をしている子供たちを見つける。車を降りて近づいて行くけど、ただのじいさん。そのじいさんがキャッチボールの相手になる。バットを振って手本を見せる。これが目に入らぬかってね。急にいい当たりが飛び出してびっくりする子供たち。いったいあの人誰っ？ 視線を後ろに感じながら、車に乗りこんで、スーッといなくなる。なんだか面白いと思わんか。」

父はテレビの『水戸黄門』のシリーズが大好きだった。見かけによらず、茶目っ気のある人でもあった。実際は、地方の市や町が主催する形での「野球教室」で教えることになったのだが、引退後、子供に野球を教えるという夢はかなった。

僕が見る夢は、ユニフォームを着て元気に子供たちを指導するそのころの父の姿が多い。

夢の中で思う。

「あれ、おかしいな。父は確か死んだはずなのに、なんでこんなに元気なんだ？ そうか、まだ死んでなかったのか。よかった」。

そんな朝は、目が覚めると、父がいない喪失感に強く襲われる。

亡くなる数年前まで、父はゴルフ雑誌にコラムを持っていた。週刊誌の連載は7年ほど続いた。父と対話し、話を聞いて記事にするのは僕の仕事だった。心臓にペースメーカーを入れる手術の時も、脳梗塞で倒れた時も、休みなく続いた。

野球とゴルフの話絡み合わせて綴る作業は楽しかった。技術や勝負の真髓。何十年やってもうまくなならないゴルフ。野球とどこが違うのか。その折々のプロ野球の出来事やありかた、自分がやってきた選手、監督時代の話。段ボールいっぱいのカセットテープが残っている。

しかし、昨季、セ・リーグ優勝の広島カープの強さの秘密や、黒田 博樹という選手の生き方、日本ハムの逸材、大谷 翔平の二刀流をどう見るか。今はそんな話がしてみたい。それがかなわないことが悲しい。

父は幼いころ、翌朝の食べるものにも困るような生活を味わっている。そのせいか、お金には敏感で、僕や妹に対して、贅沢を許さなかった。着るものや持ち物にもおよそ頓着がなく、ブランド品や高級外車などにも興味を示さなかった。

その一方、若いころから好奇心は旺盛で、趣味は広がった。カメラに凝ると暗室で現像までやる。菊やバラ、盆栽づくりをやりだすと、展覧会に出品せずには終わらない。庭に家庭菜園を造ったり、そば打ちに凝ると、家族は毎日、キュウリやそばを食べさせられるという始末だった。

物に執着がないのは、自分が野球でもらったトロフィーや記念品などについても同じだった。郷里に記念館ができると、バットやユニフォームでも、なんでも、寄付してしまった。

ところが、父が亡くなり、家の中を整理すると、押し入れや、納戸の奥から、トロフィーやペナントなどがたくさんみつかった。母がしまい込んでいて、忘れてしまったものに違いなかった。

それらは郷里の記念館や野球殿堂博物館に寄贈することにした。父の遺志に沿うことだと思ったからである。博物館では、特別の展示会を開いていただいた。展示室には父の顔を模った、殿堂入り記念のレリーフが飾られていた。

「お前にしては上出来だ」。

上から声が響いてくるようだった。



「川上 哲治 特別展」
(2016年11月15日～2017年1月15日)

野球殿堂博物館 トピックス (2016年11月～2017年1月)

セレモニー 11月15日(火)熊本応援企画「川上 哲治 特別展」のオープニングセレモニー

当館では川上家からの寄贈資料約30点を展示する熊本応援企画「川上 哲治展」を開催しました。オープニングセレモニーでは、川上 貴光氏(川上 哲治氏ご長男)、末次 利光氏(読売ジャイアンツOB、川上 哲治氏と同じ熊本県人吉市出身)、廣瀬館長によるテープカットを執り行いました。また、会場で義援金のお願いをしましたところ、59,702円の募金が集まりました。1月20日(金)に「平成28年熊本地震義援金」として、熊本県の「熊本地震義援金口座」に全額振込みました。ご協力に感謝いたしますとともに、被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。



12月17日(土) 侍ジャパン野球女子日本代表

女子野球ワールドカップ5連覇を達成した侍ジャパン女子代表に対し、当館展示へのご協力感謝状を贈呈し、企画展「野球報道写真展2016」に展示中の優勝記念写真パネル等にサインを書きいただきました。

左より 長谷川 一雄 一般社団法人全日本女子野球連盟会長、
笹沼 菜奈投手、吉井 萌美投手、石田 悠紀子選手、
清水 美佑投手、有坂 友理香捕手、志村 亜貴子主将、
廣瀬 信一館長

古葉 竹識氏 新春トークイベントを開催しました！

1月8日(日)、熊本応援企画「川上 哲治 特別展」の関連イベントとして、川上氏と同じ熊本出身の古葉 竹識氏(1999年野球殿堂入り)によるトークイベントを開催しました(事前予約制、維持会員の皆さんのお席は、前方にご用意しました。閉館後の17:15より開催)。



会場の様子



観覧者を前にお話しをする古葉氏

胡口 和雄氏(ニッポン放送ショウアップナイターアナウンサー)を聞き手に、新人の年、あこがれの存在であった川上氏に安打で一塁に出塁した際に初めて挨拶したエピソードや、「江夏の21球」の場面、津田 恒実投手との秘話など、熱く語っていただきました。

来 館

12月4日(日)

読売ジャイアンツ・高橋 由伸監督

企画展「日本野球ポスター展2016」および熊本応援企画「川上 哲治 特別展」をご見学されました。



12月6日(火)

福本 豊氏 (2002HOF)

館内でのテレビ番組収録のため、来館されました。

12月6日(火)
芝池 博明氏

当館では昨年6月の企画展「明治神宮野球場 90年の歩み」開催にあたり、芝池氏より専修大学時代に記録した東都大学野球連盟最多勝記録41勝のウイニングボールなどをご寄贈いただきました。



12月21日(水)、22日(木)JR東日本野球部

常設展や殿堂ホール、企画展「野球報道写真展2016」などを見学しました。



1月11日(水)プロ野球新人選手・審判員116名来館！

「2017年NPB新人選手研修会」に先立ち、新人選手と審判員計116名が来館しました。選手たちは、それぞれの球団ゆかりの資料やプロ野球の歴史に関する展示、野球殿堂ホールなどを、40分ほどかけて見学しました。なお、この見学会は、午前中を臨時休館し、開催しました。



発表

「日本野球ポスター2016総選挙」結果発表！

2016年11月10日(休)～12月11日(日)まで行われた「日本野球ポスター2016総選挙」の結果を発表します。詳しくは当館ホームページをご覧ください。
(http://www.baseball-museum.or.jp/2016_poster.pdf)



1位 黒田博樹200WINS

順位	タイトル	提供	得票数
1位	黒田博樹200WINS	広島東洋カープ	183
2位	感動の中にいよう。	読売ジャイアンツ	128
3位	北海道開幕①	北海道日本ハムファイターズ	89

2位 感動の中にいよう。



3位 北海道開幕①

※なお「川上 哲治 特別展」、「日本野球ポスター展2016」、「野球報道写真展2016」は終了しております。

博物館からのお知らせ

▶理事会

11月10日(休)午後1時より、東京ドームホテルにて開催致しました。

- 議題1. 諸規程について
- 議題2. 会議日程について

- 報告1. 特別表彰委員会委員の交代について
- 報告2. 野球文化の振興を目的とした船橋市との相互協力について
- 報告3. 内閣府立入検査について
- 報告4. 新規職員募集について
- 報告5. 野球殿堂博物館リニューアル検討委員会について
- 報告6. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について
- 報告7. アメリカ・野球殿堂視察について

▶次回企画展のお知らせ

・「WBC展」……………2月7日(火)～4月9日(日)

▶販売中

新発売！●ポストカード 1枚100円(税込)

下記の方々のポストカードを販売いたしております。
ご来館記念、また野球好きな方へのお便りにいかがでしょうか？
メンバーは下記の22名です。



秋山 幸二	王 貞治	大下 弘	落合 満博	金田 正一	川上 哲治
衣笠 祥雄	工藤 公康	小山 正明	斎藤 雅樹	佐々木 主浩	沢村 栄治
杉下 茂	中西 太	長嶋 茂雄	野村 克也	野茂 英雄	張本 勲
福本 豊	古田 敦也	山本 浩二	吉田 義男	(敬称略・五十音順)	

●野球守

一体 800円(税込)

野球守に新色(黒)が仲間入りしました。今年も皆様がおケガなくご活躍できますよう、お祈りいたしております。
なお、昨年お買い求めの方は、ご祈りをいたしますので、当館設置の返納箱までお持ちください。



場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日～9月30日 AM10時～PM6時
10月1日～2月末日 AM10時～PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大 人 600円(500円) } ()は
高・大学生 400円 } 20名以上の団体
小・中学生 200円(150円)
65歳以上 400円
休館日 月曜日
(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は閉館)
年末・年始(12月29日～1月1日)

《2月・3月・4月の休館日》

- 2月 6日・13日・20日・27日
- 3月 6日
- 4月 10日・17日・24日

※3月から開館時間が1時間延び、閉館は午後6時となります。

●編集後記 今年の野球殿堂入り記者発表をお伝えするため、発行が2月になりました。ご了承ください。紙面の都合上「知ってほしいこんな資料」「こんにちは図書室です」「コラム博覧/博楽」は休載します。

野球殿堂博物館 Newsletter 第26巻 第4号

2017年2月3日発行(年4回発行)
編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館
(旧・財団法人 野球体育博物館)
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

「第1回 野球で自由研究！コンテスト」のご報告

今年の夏に野球殿堂博物館は小学生を対象に「第1回 野球で自由研究！コンテスト」を開催しました。作品応募期間は8月1日から9月30日までで、全国から81件の応募がありました。



審査風景

審査は10月6日に当館応接室で行われました。山中 正竹氏 (2016HOF)、ジョイス津野田氏 (1977HOF 西村 幸生氏長女)、廣瀬館長の3名の審査員が、作品をひとつひとつ時間をかけて審査しました。厳正な審査の結果、最優秀賞に長野県3年・松原 莉彩 (まつばら りろ) さんが選ばれました。松原さんの作品は、野球のルールと歴史、素振りやボールのにぎり方について模造紙を上手に使い、まとめたことが評価されました。優秀賞には宮城県2年・澤 璃央 (さわ りお) さん、岐阜県4年・大木 悠暉 (おおぎ ゆうき) さん、新潟県5年・春川 咲人 (はるかわ さくと) さん、岐阜県5年・近藤 匠 (こんどう たくみ) さんが選ばれました。

選ばれた5名の作品は、当館企画展示室で10月29日から11月6日まで、「第1回 野球で自由研究！コンテスト作品展」としてその他の大作、力作とともに展示されました。初日には当館企画展示室で、表彰式を行いました。3名の審査員による講評の後、5名にはそれぞれに賞状が贈られました。また、副賞として最優秀賞の松原さんには、侍ジャパンの小久保 裕紀監督のサインボールが、優秀賞の4名にはサイン色紙が贈られました。



審査員と受賞者の記念撮影

	名 前	テーマ
最優秀賞	松原 莉彩 (まつばら りろ)	「野きゅうのれきしとルール」
優 秀 賞	澤 璃央 (さわ りお)	「スター☆何月うまれが多いかな？」
優 秀 賞	大木 悠暉 (おおぎ ゆうき)	「野球大好き」
優 秀 賞	春川 咲人 (はるかわ さくと)	「変化球のヒミツを探れ！」
優 秀 賞	近藤 匠 (こんどう たくみ)	「野球の疑問大研究」



表彰式の様子



副賞のサインボールを受取る松原さん

このコンテストは当館のミッションの一つである次世代を担う子どもたちへ、野球を“ひろげる”ための活動であると捉え、これからもパワーアップして続けていきます。

「第1回 野球で自由研究！コンテスト」の最優秀賞・優秀賞に輝いた作品はこちらのアドレスからご覧ください。

<http://www.baseball-museum.or.jp/jiyu-kenkyu/contest/award.html>